

大正時代の女工の食事～愛知県尾西市の資料から（第二報）

○中野典子\* 馬場景子\*\* 富田和代\*\*\*

（\*椛山女学園大、\*\*名古屋工業大、\*\*\*一宮女子短期大）

【目的】戦前から戦後にかけて日本国内で企業の統制が行われた。日本有数の毛織物産業の集中地域として知られていた愛知県尾西市三条では、鈴鎌毛織がセンターとなった。その結果として日本の近代労働階級の形成期である明治時代の資料をはじめ、大正・昭和初期の各資料が未公開のまま保存され、現在に至っている。本研究では、大正5年に施行された工場法以降の資料を中心に分析し、当時の女工の食事を栄養面の観点から健康面に焦点を当て考察していく。

【方法】 1. 文献調査（鈴鎌毛織KK資料から大正12年の資料と、尾西郷土資料館の資料）  
2. 聞き取り調査

【結果及び考察】

1. 「献立予定表」の品目と数量による朝食・昼食・夕食のカロリーは平均 1,843kcalであった。「雑品買入帳」との比較から当時の工場での食事の特徴を明らかにする。
2. 「受診簿」と「検診簿」との女工の健康状態と疾病状況を分析する。
3. 「入場名簿」から労働時間を分析する。

以上を踏まえ女工という日本の近代化を支えた女性たちの環境を食と健康の観点より考察していく。